

# 薬史レター

日本薬史学会

J S H P



第 89 号

2022 年 9 月

## 日本薬史学会 2022 年会 (宮城) のご案内 (その 2)

年会長 江戸清人 (エコー電力ビル薬局顧問)

本年会では、ウイズ・コロナの時代、できるだけコロナ禍前に少しでも近づけるようにと考えて準備中です。一般講演のほか、特別講演「我が国のベンチャービジネス、医薬品を例に、現在と将来」(アンジェス株式会社、代表取締役社長 山田英氏) [午前]、特別講演・市民公開講座「日本史が変わってきている - 古代史のエビデンスが蓄積」(日本国史学会理事長・東北大学名誉教授 (文学部) 田中英道氏) [午後] を企画いたしました。

### 【開催日時】

2022 年 11 月 5 日 (土) 開会 10:00  
(受付開始 9:30)

### 【会場】

東北大学大学院薬学研究科・薬学部棟  
〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-3  
TEL.022-795-6851 / FAX.022-795-6851

### 【年会事務局】

東北大学大学院薬学研究科がん化学療法薬学分野  
内「日本薬史学会 2022 年会 (宮城)」  
事務局長 富岡佳久 ytomioka@tohoku.ac.jp

### 【情報交換会】

コロナ禍の先行き不透明のことから今回は中止とさせていただきます。

### 【研究発表演題の募集】

募集に応募された方、ご協力ありがとうございました。

### 【年会参加申し込み】

これから参加登録をされる方は下記参加登録

URL より 2022 年 9 月 30 日 (金) までにお申し込みください。お振り込みも同日までをお願いします。10 月 1 日 (土) 以降は“当日登録”扱いとなりますのでご注意ください。

参加登録 URL :

<https://forms.gle/9Bfs9LWjzWtYDK3r6>

### 【振込先】

金融機関名：七十七銀行 小松島支店 (銀行コード 0125/店コード 260) /口座種別：普通/口座番号 5022353 /振込先名義人名：日本薬史学会 2022 年会年会長 江戸清人 (ニホンヤクシガツカイ 2022 ネンカイネンカイチョウ エドキョト)

### 【参加費】

会員 (事前登録 4,000 円・当日登録 5,000 円)  
非会員 (事前登録 5,000 円・当日登録 6,000 円)  
学生会員 (事前登録無料・当日登録 1,000 円)  
学生非会員 (事前登録 1,000 円・当日登録 1,000 円)  
お弁当代 (1,000 円)

### 【薬史ツアー】

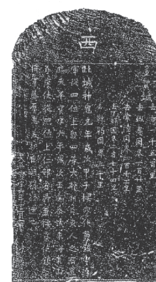
JR 仙台駅東口バスプール 11 月 6 日 (日) 8:30 集合 ① 仙台市若林区南材木町、日本薬史学会 第 2 代会長就任予定であったが急逝のためかなわなかった“薬学の巨人”、仙台御出身の清水 (長尾) 藤太郎先生の生家があった地の付近を通過、② 仙台市立荒浜小学校 [東日本大震災遺構] 見学、③ 多賀城跡・東北歴史博物館見学、④ 日本三景松島にて昼食、⑤ 日本三景松島瑞巖寺見学、⑥ 松島町内自由行動 (五大堂などが近い)、17:30 ころ仙台駅東口にて解散を予定しています。参加者は

申し込み順とさせていただきます〔貸切大型バス1台、定員30名、最少催行人員20名、観覧料・昼食代込みで10,000円〕。なお、“薬史ツアー”の詳細は学会が近づきましたらその実施詳細を日本薬史学会のホームページ等にてお知らせする予定です。

以上、多数のご参加をお待ちしております。



多賀城碑覆屋



多賀城碑拓本

## 役員新任・退任挨拶

コロナ禍のため、2022年度の総会も Web開催となりました。常任理事会で協議し、今回も新任、退任の役員から会員の皆様向けのご挨拶を誌上でいただくことといたしました。新体制・組織図につきましては学会 HP をご覧ください。

### 日本薬史学会副会長就任のご挨拶

船山信次

歴史ある日本薬史学会の副会長就任、大変光栄に思うとともに重責も感じています。

私が入会したのは、東北大学薬学部を卒業し大学院に進学してまもなくの1976年のことでした。爾来、学位取得後、イリノイ大学薬学部・北里研究所・東北大学薬学部・青森大学工学部・日本薬科大学と、立場や所属が変わってもお世話になりました。今度は恩返しする時が来たのではないかと考えてこの大役を受けることにいたしました。かくなる上は、会長を補佐し、皆様のご協力を得ながら、この会のさらなる発展のために尽力したいと思いますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

### 企画委員長就任のご挨拶

宮崎生子

これまで企画委員を担当しておりました。この度、企画委員長を拝命いたしました。よろしくお願い申し上げます。新型コロナウイルス感染の影響は暫く続くこととは思いますが、4月の公開講演会や12月の六史学会合同例会をはじめ、薬史学会主催の各種活動が成功し、日本の薬学の進歩発展に貢献できますよう、微力ながら精一杯務めさせていただきます。

いと思っております。どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

### 柴田フォーラム委員会副委員長就任挨拶

江戸清人

この度は長い歴史を誇る日本薬史学会の柴田フォーラム委員会の副委員長を仰せつかり、誠に光栄に存じます。船山信次委員長の元、委員長を補佐しながら柴田フォーラムの発展に尽力をさせていただきます。本学会も70周年が近くなり、また、我が国の明治以降の薬学、いわゆる、近代薬学のあらゆる面からの評価をすべき時期に入っています。日本薬史学会の活動の一つに薬学の歴史の評価があってもよいかなと考えています。

### 柴田フォーラム委員就任のご挨拶

三田智文

本年4月より、柴田フォーラム委員を拝命いたしました。以前は広報委員会の委員を務めておりましたが、今年度からは柴田フォーラム委員として勉強させて頂くことになりました。微力ではございますが、先生方のご指導ご鞭撻を賜りつつ、委員として少しでもお役に立てるよう努めてまいりたいと思っております。よろしくお願い申し上げます。

## 企画委員新任のご挨拶

高浦佳代子

本年4月より、企画委員を拝命いたしました高浦佳代子と申します。近畿大学薬学部薬用資源学研究室にて講師を務めております。学生時代より薬史学に興味があり、2009年度に入会、それ以来色々勉強させていただいて参りました。今回企画委員にとお声がけを頂きまして、ご恩返しの意味も含め少しでもお役に立てるようにと気の引き締まる思いです。至らない点多々あるかと思いますが、何卒よろしく願いいたします。

## 評議員就任のご挨拶

飯野洋一

今年度から評議員を務めさせていただくことになりました飯野洋一と申します。

昨年度、『薬史学雑誌』Vol.56, No.2に拙稿を投稿させていただくことになり、本会に入会いたしました。現在、東京大学薬学図書館に勤務しています。

私は昭和58年1月に東京大学法学部研究室図書室に採用されて以来、東京大学の各図書館・室に40年間勤務しています。図書館職員として薬史学関係の図書資料の収集・活用を図っていきたく存じますので、ご指導のほどお願い申し上げます。

## 評議員就任のご挨拶

高橋洋一

横浜で開局する薬剤師で、薬剤師会、薬剤師連盟で教育研修や政策に関わる仕事をして参りました。

その関係で度々天野宏先生のご指導、ご助言を仰いだことがご縁で、東邦大学薬学部で薬史学の講義を拝命しました。

もとより薬史学の研究者ではありませんし、会員の先生方に恥ずかしいほどに勉強が足りていないことを充分承知しております。

ピント外れではありますがよろしくお願い何かのお役に立てれば幸いです。

## 監事退任のご挨拶

三澤美和

2016年度から折原会長時代4年間および森本会長時代2年間薬史学会監事を務めました。この度退任することになりました。この6年間皆様のご努力で学会財務状況が良好に改善されました。学会の維持・発展は、会員数の確保や財政的安定などのbasicな面からしてたいへん難しいものですが、薬史学会が今後とも健全に発展し、社会に大きな貢献をし続けることを願って止みません。

長年にわたって諸先輩および皆様方には大変お世話になりました。有難うございました。

## 総務委員長退任のご挨拶

小清水敏昌

「総務」というのはどんな組織でも要である。しかしながら仕事としては全体を見るので非常に多岐にわたり、薬史学会といえども結構気を使った。会長を支え組織にとっては縁の下の力持ちの立場である。過去2年間新たに始まったZoomの会議も含め、3人の総務委員と共に裏方の仕事を行った。大変さは覚悟の上であったものの、自分では面白く業務をさせていただいた。様々なご協力に改めて感謝申し上げます。

## 企画委員長退任のご挨拶

御影雅幸

2018年度から2期、企画委員長を務めさせていただきました。その間、コロナ禍で種々の定例行事がオンライン開催になったり、また已む無く中止になったりしましたが、皆様にご協力いただきながら責務を果たせましたことに感謝しております。薬史に限らずあらゆる分野で歴史から学ぶことの重要性を感じる昨今です。若い方のご活躍を期待し、本会の益々の発展を願っております。

## 中部支部だより

# 日本薬史学会・中部支部例会 演題募集

中部支部長 河村典久

日本薬史学会・中部支部例会は、この度の新型コロナウイルス禍の影響でしばらく開催しておりませんでした。行動規制緩和もあり、今年度については開催したいと考えております。

暫く講演会の演題募集も行っておりませんでした。講演していただける先生は、演題、発表者名を下記事務局・連絡先まで、**令和4年10月末まで**にお知らせ頂きますようお願いいたします。

会場につきましては、これまでの施設が使用できなくなっておりますので、今回は名古屋市立大学桜山キャンパス内の一部屋において開催する予定ですが、まだ開催日、部屋の確定はしておりません。また、今後の状況により、中止せざるを得ないことも有りますので、詳細については薬史学会にアドレスが登録されている会員にはメールにより改めてお知らせする予定です。

アドレスが登録されていない方は、アドレスを事務局までお知らせください。

記

日時：2023年2月の土曜日（日にちは調整中）  
午後2時～4時

場所：名古屋市立大学 桜山（川澄）キャンパス内

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1

アクセス：名古屋駅より地下鉄桜通線（約20分）

「桜山駅」下車③出口

事務局・連絡先：日本薬史学会・中部支部

名城大学薬学部 飯田耕太郎

〒468-8503 名古屋市天白区八事山150

TEL：052-839-2710（直通）

FAX：052-834-8090

E-Mail：iida@meijo-u.ac.jp



## 「海外の薬史学会の今(9)ドイツ」

国際委員会 宮崎啓一

2021年、ドイツにおいても新型コロナウイルス感染拡大の影響により、対面でのイベント開催が大きく減少した。それにもかかわらず、特筆すべきものとしては、2年に一度開催される「時代を超えた薬用植物」をテーマに開催されたドイツ薬史学会(DGGP)のイベントがある。本大会は10月8日～10日にDetmoldで開催された。DGGPの開催にあたり、大会長である薬剤師のChristian Schmidtは

多大な称賛を浴びることになった。

COVID-19のために本大会を2度延期しなければならない事情が発生したが、不屈の精神で対面での開催に到った。本大会組織委員会のスタッフの喜びはひとしおであり、3度目の試みが見事に成功したとき、さらに大きく膨れあがった。隔年で開催される本大会の議事録は、従前どおりのシリーズとして、発行されることになった。

詳しくは、ISHP NEWSLETTER 23、2022の24ページをご参照ください。

本邦においても、COVID-19によって多くの学会がオンラインによる開催を余儀なくされたケースが生じております。

## 薬史の昔を語る

# 「まず薬局においでなさい」(横浜：平安堂150年の歩みから)上映会参加報告

会長 森本和滋

清水眞知評議員のお招きで、2月23日(水・祭日)10:30～11:30 横浜市技能文化会館5F 特別会議室で開催されたビデオ鑑賞会に参加した。

参加者は、横浜シティガイドの方(3名)、清水先生を慕う馬車道界隈の知識人、平安堂薬局の馴染みのお客さん等十数名、46分余のビデオを、一緒に楽しませて頂いた。

はじめに、横浜ベイブリッジが映し出され、横浜の歴史と共に発達した馬車道通り、2020年1月、この通り沿いに、新ビルディングが完成して、その1階に平安堂薬局の新たなスタート、6代の店主の聖子が登場し、ご挨拶で始まった。

ビデオは、「まず薬局へおいでなさいー薬学の巨人清水藤太郎」の本<sup>1)</sup>(写真)に基づいて作成されている。第1章は、初代清水榮助は、和歌山出身1870年馬車道で創業、上気平安湯からその歴史がスタートした。第2章は、三代目・藤太郎である。1886(明治16)年3月30日宮城県仙台で長尾喜平太の長男として誕生、1902年仙台医学専門学校で佐野喜与の助手となり、1905年独学で勉強し、宮城県で最初の薬剤師となる。1907年5月(21歳)衛生助手として神奈川県庁に奉職、1911年平安堂の後継者として娘婿・3代店主・清水藤太郎がスタートした。1923(大正12)年9月1日関東大震災で平安堂薬局全壊。そして1945(昭和20)年5月29日の横浜大空襲で再び壊滅的な被害と試練は続いた。

1950(昭和25)年長男不二夫に店主を譲り、1951(昭和26)年より我が国の薬学史の研究に専念、1954(昭和29)年10月25日の日本薬史学会の創設、

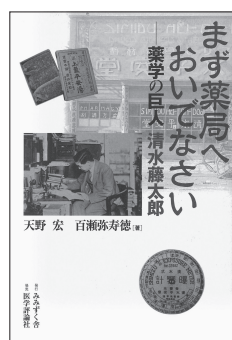
未だCOVID-19の終息の目は見えませんが、大会開催に向けたドイツ薬史学会のスタッフのご苦勞については、今後の私どもJSHPの会員にとっても、良きモデルになろうかと存じます。

初代会長に朝比奈泰彦が就任され、藤太郎は会長を支えた。1920年代に、帝大の植物採集での朝比奈教授との出逢いがあり、共編で「医薬処方語・羅和・和羅辞典」が1926(大正15)年刊行した。ドイツ語やラテン語の凄い語学力、薬剤師教育への情熱、まさに薬学の巨人。「歴史は、過去の諸現象を論じ、反省し、将来の問題を解決する鍵となる」、「私は生涯一薬剤師であります」の言葉を遺している。

地域薬局の社会貢献を目指して30年、5代目店主清水良夫から、6代目店主の鈴木聖子(良夫と眞知の娘)へとその使命は受け継がれている。良夫は、祖父藤太郎のことを、「まわりのことが全然気にならない没頭する人」、聖子は、2代目榮助のことを「探求心が強く、突き進む人」、先代の思いもしっかり理解している。

地域に密着した健康について相談できる薬局、不幸にして病魔に犯された人、調子悪い人が安定するまで寄り添って行かねばならない。薬局らしからぬ外観、「あれこってどんなお店？」驚きながら薬局に入って来るお客に、「どんな情報がほしいですか？」をさりげなく尋ねてくれる薬剤師でありたいとの思いがビデオから読み取れた。

本ビデオは、薬局薬剤師を目指す学生さんにとり、とても実用的な研修教材となることが期待される。2019年12月認定薬剤師を取得し、現在更新中の筆者にとっても、有用な研修機会となった。PC



のトラブルの関係で開催が少し遅れ、その時間を利用して頂いて、日本薬史学会の紹介や豊島区民講座で話した内容<sup>2)</sup>を、少し参加者にお話しさせて頂き、双方向の対話を楽しませて頂いた。

両親である良夫と眞知の思いが、6代目聖子に、しっかりと受け継がれていることを嬉しく思って、会場を後にした。

なお2022年会(宮城)では、11月6日の薬史ツ

## 〔Book紹介〕

木村友香 著

### 女子薬学専門学校の研究 —女子教育の困難をこえて—

価格：本体2,000円＋税 ISBN：978-4-87923-143-7 C3037 初版：2022年4月7日

本書は、木村友香先生(早稲田大学)の「女子薬学専門学校の研究」を中心に、高等教育におけるジェンダーギャップに関する研究を取りまとめたものである。木村先生から広報委員のお仕事を引き継いだご縁があり、森本会長より本書をご紹介する機会をいただいた。なお、引き継ぎ前の経緯は、森本会長が日本薬史学会2021年会の基調講演でお話されており、本書についても薬史学雑誌の追記で紹介されている<sup>1)</sup>。

木村先生は、高校時代、理系進学を考えながらその進学選択に迷い、結果的に京大の経済学部に進学、卒業後は公務員となったが、納得できない気持ちとなり、早稲田大学大学院での学びを開始し、精力的に研究を進められていたことが、本書の結びに木村先生の指導教官であった矢口先生が述べられている。

本書は、第1章で明治時代の女子薬学専門学校の成立の経緯、第2章で進路選択における他の分野との比較やその背景に関する調査研究について取りまとめられている。第3章は、薬史学雑誌<sup>2)</sup>に論文として掲載されたもので、東京に設立された女子薬学専門学校の設立目的に焦点を絞り、男子を対象とした薬学専門学校との比較と考察が記述されている。第4章では、東京女子薬学専門学校(明治薬科大学)と神戸女子薬学専門学校(神戸薬科大学)に注目し、卒後の進路に関し、残された限られた資料について調査された研究成果が示されている。第5章では、大正から昭和初期の職業案内書から、薬剤師と医師、歯科医師との比較も含めた調査研究を行い、従事者

ア—では、清水(長尾)藤太郎先生の生家があった地、仙台市若林区南材木町付近を通過することになっている。

1) 天野宏、百瀬弥寿徳. まず薬局へおいでなさい—薬学の巨人清水藤太郎. みみずく舎, 2014.

2) 森本和滋. 高田三丁目の薬の歴史: 雑司が谷地域文化創造館での区民講座. 薬史学雑誌. 2019; 54(2): 126-29

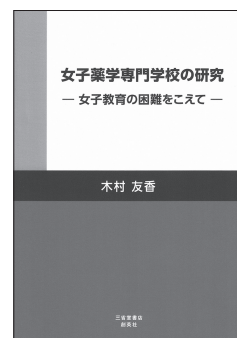
の増加の実態を明らかにするとともに、ジェンダーギャップの本質として、「良妻賢母」の呪縛について考察されている。以上の研究成果は、木村先生によって執筆された論文をベースに編纂されたものである。いずれの研究も、膨大な調査に基づいており、資料としての有用性も高い。また、本書には、木村先生の後輩である高居先生による「東京女子薬学専門学校出身で日本婦人科学者の会(日本女性科学者の会)の設立に貢献した溝口歌子の研究」が第6章として肉付けされ、一連の研究としての完成度が高められている。さらに、木村先生と同僚や後輩の先生方の関連研究の成果についても特論として掲載され、充実した内容となっている。

本書は、木村先生の指導教官であった矢口先生と多くの研究仲間や高校時代の友人らの協力により編纂されたとのことで、木村先生の人柄が偲ばれる。木村先生は、本書で示されたご研究をどのように発展させようと考えておられたのか、今後、ジェンダーギャップの解消に何が必要なのか等々、考えを伺いたい思いに駆られる一冊である。

1) 森本和滋. 薬史学雑誌. 2022; 57(1): 1-8

2) 木村友香. 薬史学雑誌. 2020; 55(2): 128-135

(日向昌司)



## [Book紹介]

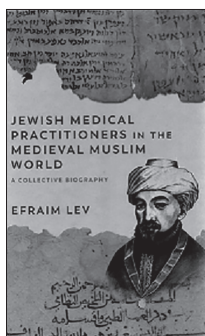
Efraim Lev著

# Jewish Medical Practitioners in the Medieval Muslim World: A Collective Biography

Edinburgh: Edinburgh University Press, 2021. Pp. 528, Hardback, price £95.00. ISBN 978-1-47448-397-1.  
E book (ePub), price £95.00. ISBN 978-1-47448-399-5.

著者は、ハイファ大学人文学部イスラエル研究科の教授である。中世における中東の医学の歴史と伝統薬物の民族薬理学を専門分野としている。本書は、エジンバラ大学出版局が新たに立ち上げたシリーズのひとつとして「非ムスリム教徒のムスリム文明への貢献」というテーマに基づき出版された。内容は、9世紀から16世紀までのムスリム世界におけるユダヤ人開業医と薬剤師、その家族、地域社会での生活である。著者は、ケンブリッジ大学図書館所蔵するカイロ・ゲニザコレクションの多くの文書が、薬品、香辛料、香水、医療用や調理用薬材の加工販売を行う職業について言及していることを指摘している。そこで、これらの内容をアラビア語で記された一次情報を基に分析した。

巻頭には、人物の名称、転写、略語、引用、文献、時代、ムスリムの支配者に関する注釈が収められて



いる。本文の構成は、謝辞、序文、「ユダヤ人開業医の歴史的研究方法」と「ユダヤ人開業医の職業的、社会的、地理的、宗教的、経済的側面」の2章から成る。なかでも第2章では、「さまざまな社会的階層出身のユダヤ人開業医がムスリム諸国の都市部と農村部に居住しており、アラビア語の名称も持っていたという事実を明らかにしている。本書に収められた医師たちのライフストーリーは、当時の文化、民族、地域医療に関する情報だけではなく、アラビア語とヘブライ語の関係についての洞察にも満ちている。また、膨大な参考文献や史料は、著者が細心の注意と熱意をもちつつ研究を続けてきたことを証明している。飾られた言葉を使わない文章は読みやすく、中東の医薬への興味を引くとともに、医・薬学写本研究の意義を問いかけてくる。したがって、本書は、医・薬学史の研究者には欠かすことのできない包括的資料であるといえよう。

(夏目葉子)

## 日本薬学会史年表について

2022年4月に日本薬史学会・日本薬学会史年表作成委員会で作成いたしました「日本薬学会史年表(続)2016～2020年」(ファルマシア. 58(4):389-399(2022))が発刊されました。J-STAGEで認証なしで公開されておりますので、是非ご覧ください。

[https://doi.org/10.14894/faruawpsj.58.4\\_389](https://doi.org/10.14894/faruawpsj.58.4_389)

## 学会HPのアーカイブ(国会図書館)

日本薬史学会HPが、国立国会図書館のインターネット資料収集保存事業(Web Archiving Project: WARP)の対象となりました。

現在、雑誌バックナンバーを含む2021年8月と9月の時点のHPデータが保存されています。今後も一定の頻度で蓄積されていく予定で、UMINの定期メンテナンスや不測の事態のバックアップとしても活用が期待されます。

<https://warp.da.ndl.go.jp/>

# 薬史往来 日本大学薬用植物園の系譜 (1)

日本大学薬学部生薬学研究室 松崎 桂一

日本大学薬学部は令和4年(2022)で創立70周年を迎えた。昭和27年(1952)の設立時は工学部薬学科。他の薬学部と異なり、製薬会社等薬の製造部門で活躍する薬剤師の養成を目的に開講した学科であった。薬用植物園は翌年に現在の生産工学部津田沼キャンパスに誕生した。設立に関わったのは生薬学研究室初代教授の木村雄四郎先生である。先生と日本大学との繋がりは、薬学科設立より遡ること20年、昭和7年(1932)に拓殖科(現在の生物資源科学部)で薬用植物の栽培指導したことであろう。薬用植物の栽培は医薬品製造の原点であり、学科設立の理念に適った招聘であったのではないだろうか。

先生は大正11年(1822)に東京帝國大学医学部薬学科選科(生薬学・植物化学専攻)を卒業し、

直ちに内務省東京衛生試験所薬用植物栽培試験部(粕壁)に勤務されたのち、大正13年(1824)に津村研究所に入所され、仙川(現在の白百合女子大キャンパスあたり)の同研究所の植物園の創設に参画されている。この2園の設立目的は現在の薬用植物園の趣旨と異なり、専ら薬用植物の栽培育種で、良質の薬用植物の生産を目指していた。

津田沼キャンパスに設立された植物園は決して広いとは言えないが、多種の薬用植物を栽培しており、珍しい多くの薬用植物は衛生試験所から分与されたものと推察される。植物園に残されている芳名帳をみると、木村先生の恩師であられる朝比奈泰彦先生の名前を見つけることができる。

(次号へ続く)

## 学会 HP リニューアルのお知らせ

2022年7月に日本薬史学会のWebサイトがリニューアルされました。新しいURLは、<https://plaza.umin.ac.jp/yakushi/> です。

## 日本薬史学会編集委員会

編集委員長：齋藤 充生

編集委員：赤木 佳寿子 小林 哲 武立 啓子

## 薬史レター 第89号 2022年9月

編集人：齋藤 充生 発行人：森本 和滋

日本薬史学会 The Japanese Society for the History of Pharmacy (JSHP)

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 (助学会誌刊行センター内 日本薬史学会事務局)

tel : 03-3817-5821 fax : 03-3817-5830 e-mail : yaku-shi@capj.or.jp <http://yakushi.umin.jp>

所属先、住所、アドレスなどの変更が生じた場合には、学会事務局へ必ずご連絡ください